

事務 事業名	コード1	1985	生涯学習まちづくり推進事業	課	生涯学習課		
	コード2			所属班	社会教育班		
			☐ 主要事業	電話番号	57-5727	内線	275
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化を育むまちづくり	予算	会計		
	施策	5	生涯学習の充実	科目	一般会計		
	施策の展開	4	生涯学習講座の充実・人材育成	根拠	旭市生涯学習推進本部設置規程・旭市生涯学習推進協議会設置規程		
	基本事業	252	生涯学習講座の開催	法令			
				款	10	項	01

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 8 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	市民や関係団体等に生涯学習に関する発表の場を提供することで、相互の交流を深めてもらうと共に、広く市民等から意見や要望を聴取し、それをもって生涯学習の振興に繋げていくことを目的とする。具体的には、生涯学習フェスティバルでの青少年意見発表会や各種教室の発表、作品の展示などを通して生涯学習の振興・拡大に努める。 【業務の流れ】 旭市生涯学習推進協議会を開催し、年間行事を協議。その後、協議内容を踏まえて、年間行事を遂行していく。

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業費	消耗品費(旭市生涯学習フェスティバル用品)	千円						
	食糧費(講師弁当代)	千円						
	印刷製本費(旭市生涯学習ガイド印刷代)	千円						
	通信運搬費(ボランティアリーダーバンク登録者通知代)	千円						
	その他	千円						
② 延べ業務時間の内訳		千円	335	261	411	289		
生涯学習フェスティバルの準備調整から開催までに88時間		事業費計(A)	千円	335	261	411	289	0
生涯学習ガイドの作成に64時間		人	0.10	0.10	0.10	0.10		
ボランティアリーダーの登録照会に48時間		時間	200	200	200	200		
		人件費計(B)	千円	760	760	760	760	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,095	1,021	1,171	1,049	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 旭市生涯学習推進計画の進捗状況の検証 旭市生涯学習フェスティバルの開催 旭市生涯学習ガイドの発行	ア 生涯学習フェスティバルへの参集者数	人	1,450	1,600	1,400	1,600		
目的	24年度計画(24年度に計画している主な活動) 平成23年度の事業の継続に加え、生涯学習フェスティバルの開催日程の短縮を図る。	イ							
		ウ							
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 市民(市内在勤者含む)	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 人口	人	70,376	70,138	69,749	69,223		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか) 生涯学習フェスティバルへの参加や観覧により、参加者においては資質の向上が図られ、市民においては教養の向上が図られる。	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 生涯学習フェスティバルへの参加団体数	団体	38	35	35	38		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか 同じ趣味や嗜好を持った人の輪が広がることで、益々生涯学習に関するボランティアリーダーの発掘が可能となり、更なる社会教育の充実に向けて講座の開設が見込まれる。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 生涯学習ボランティアリーダー登録者数	人	93	94	94	94		
		イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
平成8年度に、生涯学習の振興を図る機運が高まり、旭市青年の家や旭市働く婦人の家で行っている教室や講座については、ステージ発表や作品展示等の場がなかったということで、その問題解消のために、生涯学習フェスティバルが創設されることになった。	生涯学習フェスティバルにおける芸能発表については、自主的に出場される方が減少傾向にある。	生涯学習フェスティバルの発表(展示)部門においては、他のイベント(海上公民館まつりや文化祭等)と競合するものが見受けられるため、一部縮小も視野に入れる必要が出ている。

事務事業名	生涯学習まちづくり推進事業	課名	生涯学習課	班名	社会教育班
-------	---------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 結びついている ⇒【理由】
	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	生涯学習フェスティバルを通して、各種の教室や講座で学んだことを発表したり展示したりすることにより、参加者は資質が上がり、市民は教養の向上が図れるという効果が期待できる。ただし、内容については、他のイベントと競合するものもあるので一部精選が必要である。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	生涯学習の振興を図ることを考えると、広く市民を対象にする必要がある。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】
有効性 評価	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	市が講座や教室の受講者を募集している現状を考えると、受講者が学んだことを発表する場を市が提供することは妥当であり、効果的である。
	④ 成果の現状水準	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】
	あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	生涯学習フェスティバルで、多くの市民に講座や教室の内容を見もらうことにより、地域の活性化につなげていくという点では、ある程度成果がでている。そのような意味では、他にも発表する場はあるが、より多くの方に発表を見もらうためには現状でよい。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】
	次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	受講者や観覧者の声を生かし、運営計画の見直しを行っていくことで、事業の成果が向上すると考える。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】
	目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	講座や教室の一部の発表を他のイベントで行うことは可能である。しかし、より多くの方に見て頂き生涯学習の振興を図っていくことを考えると多くの場を提供したいと考える。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	本事業のニーズはかなり高い。しかし、内容を工夫することで質を落とさずに経費を削減することは可能である。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性 評価	やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	生涯学習フェスティバルの開催を2日間から1日へと短縮し、実施する方向である。短縮できれば、正規職員の延べ業務時間は確実に削減できる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	より多くの講座や教室の受講者に発表の場を提供し、地域に広めていくことが重要である。そのためには、一部の講座や教室の受講者に偏らないように広報活動を行っていく必要がある。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	生涯学習フェスティバルとして、各種講座の発表の機会の提供と青少年の健全育成のため意見発表大会、文化と教養を高めるための文化講演会を一同に会して行うことは非常に有意義であるが、反面PR不足もあり観客が少ないのが反省点である。今後は事業内容の見直しも含め観客の増加を図っていく。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①生涯学習フェスティバルの開催日程短縮の継続。 ② ③ ④																								
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①生涯学習フェスティバルの開催日程短縮に係る関係者への理解。 ② ③ ④																								